

【丹波市】

校務DX計画

1 概要

文部科学省は、「GIGA スクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」が令和5年3月に取りまとめた「GIGA スクール構想の下での校務 DX について～教職員の働きやすさと教育活動の一層の高度化を目指して～」を公表し、次世代の校務 DX の方向性を示した。その提言を受け、「令和7年度以降の学校における ICT 環境の整備方針」及び整備方針を踏まえた「学校の ICT 環境整備3か年計画（2025～27年度）」を令和7年1月に策定し、次世代の校務 DX 環境の整備の必要性が示された。

また、文部科学省は、「GIGA スクール構想の下での校務 DX チェックリスト」に基づく各学校の自己点検を実施し、その結果はデジタル庁の校務 DX の取組に関するダッシュボードに掲載されており、各学校の校務 DX がどの程度進んでいるのかが公開されているところである。

「GIGA スクール構想の下での校務 DX チェックリスト」では、「学校内の連絡のデジタル化」及び「教職員と児童生徒間の連絡等のデジタル化」については、ほぼ全国平均以上の結果であると考えられるが、「教職員と保護者間の連絡のデジタル化」については、今後重点的に取り組む必要があると考えられる。また、「押印の原則廃止」も全国平均を下回っており、押印の原則廃止についても重点的に取り組む必要がある。

○デジタル庁ホームページ 校務 DX の取組に関するダッシュボード抜粋

項 目	細 目	丹波市	全国
教職員と保護者間の連絡のデジタル化	欠席・遅刻・早退連絡	57%	76%
	お便りの配信	57%	49%
	調査・アンケートの実施	48%	61%
学校内の連絡のデジタル化	校内での資料共有	96%	76%
	校内での情報共有	78%	77%
	調査・アンケートの実施	65%	67%
教職員と児童生徒間の連絡等のデジタル化	各種連絡事項の配信	30%	28%
	調査・アンケートの実施	74%	54%
その他	FAX の原則廃止	30%	23%
	押印の原則廃止	4%	7%

※2024 年 12 月 26 日更新データ

2 具体的な取り組み

（1）校務系及び学習系ネットワークの統合

丹波市では、教職員のみが接続できる「校務系」、児童生徒が学習に使用する「学習系」の2つのネットワークに分離しており、一定のセキュリティを確保している。

これは、従来の境界防御型のセキュリティ対策を踏まえたものであるが、1人1台端末の整備とクラウド活用を核とする GIGA スクール時代の教育 DX や働き方改革の流れに適合しなくなっている。また、次世代の校務システムの導入や、教職員の働き方改革にも資するロケーションフリーでの校務処理を行うためには、強固なアクセス制御に基づくセキュリティ対策を十分講じた上で、校務系及び学習系ネットワークの統合が必要であり、校務 DX のためのネットワーク基盤として整備を進める。

（２）次世代型校務支援システムの導入

現在、校務支援システムは教育委員会のサーバー上で稼働しており、職員室等の学校内の限られた場所でしか使用することができない。

校務 DX を進めるには、時間と場所の制約をなくし、より柔軟で効率的な働き方を選択できるようにする必要があるため、クラウド上で運用する次世代型校務支援システムの導入を進める。

（３）押印の廃止

押印の廃止に関しては、令和３年度に丹波市財務部財政課で策定された「丹波市行政手続に関する押印見直し方針（手順）」により、合理性を欠くものについては原則として押印廃止としているところである。しかしながら、押印を必要とするものが残っており、今後とも押印を求めている関係団体や事業者等に丁寧に対応を行っていく必要がある。

（４）汎用クラウドツールの活用

「GIGA スクール構想の下での校務 DX チェックリスト」では、「教職員と保護者間の連絡のデジタル化」の達成度が全国平均より低く、「欠席・遅刻・早退連絡」及び「調査・アンケートの実施」について重点的に取り組む必要がある。

これらの項目は、汎用クラウドツールを活用することでその多くは解決できると考えており、庁内ポータルでの活用事例の紹介や ICT 支援員を活用することにより、汎用クラウドツールの活用を進めていく。